

他校の活用・取り組み例

■ 仙台第三高等学校／宮城／県立

- SSHの取組みの外部評価としてPROG-Hを利用
- 学校独自の調査とPROG-Hの相関関係を検証し、調査結果の妥当性を確認

●学校独自のSSH自己評価

●PROG-H (コンピテンシー) と相関を調査

表3—2—9 SSH自己評価アンケート用紙

[illegible]

3年間のSSH学校設定科目による授業、課題活動、通常科目による授業等の様々な経験や体験を通じて、15項目+1項目に関して「現在からみた入学時の自分に対する評価」、「現在の自分に対する評価」をリッカート式質問紙で調査

PROG-Hを1年次と3年次で受験

**質問紙による能力・資質態度の伸長の自己評価と
PROG-Hの結果を比較・検証することで、自己評価の
妥当性を確認し・評価の客観性を担保**

表 4-4-2 各コース各因子と PROG-H

コンピテンシーとの相関係数

3年次コン ピテンシー	理数科		普通科理系		普通科文系	
	f1n	f2n	f1n	f2n	f1n	f2n
総合	0.229	0.190	0.233	0.219	0.298	0.291
対人	0.201	0.164	0.173	0.170	0.265	0.261
対自己	0.131	0.064	0.222	0.195	0.262	0.251
対課題	0.275	0.303	0.107	0.096	0.155	0.141
親和	0.145	0.138	0.192	0.202	0.133	0.151
協働	0.158	0.174	0.049	0.075	0.190	0.221
統率	0.169	0.094	0.124	0.101	0.235	0.201
感情制御	0.036	-0.005	0.098	0.067	0.174	0.151
自己創出	0.175	0.078	0.277	0.260	0.159	0.161
行動持続	0.188	0.162	0.171	0.160	0.309	0.291
課題発見	0.295	0.249	0.105	0.079	0.167	0.131
構想	0.130	0.182	0.029	0.025	0.150	0.141
実践	0.145	0.191	0.055	0.058	0.089	0.081

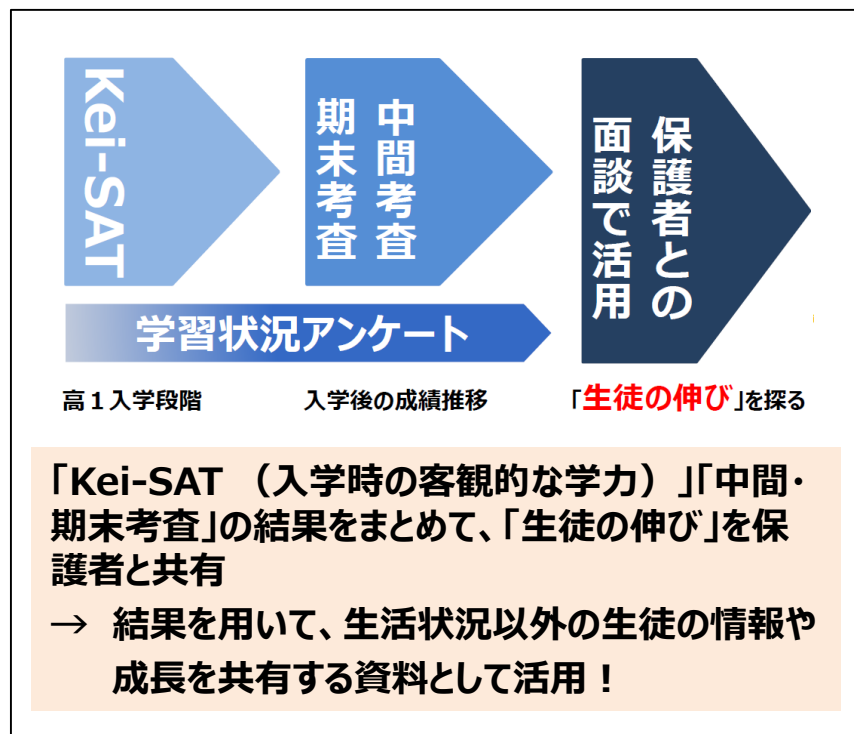
0.15以上のものは赤字、0.2以上のものは赤で塗りつぶしている



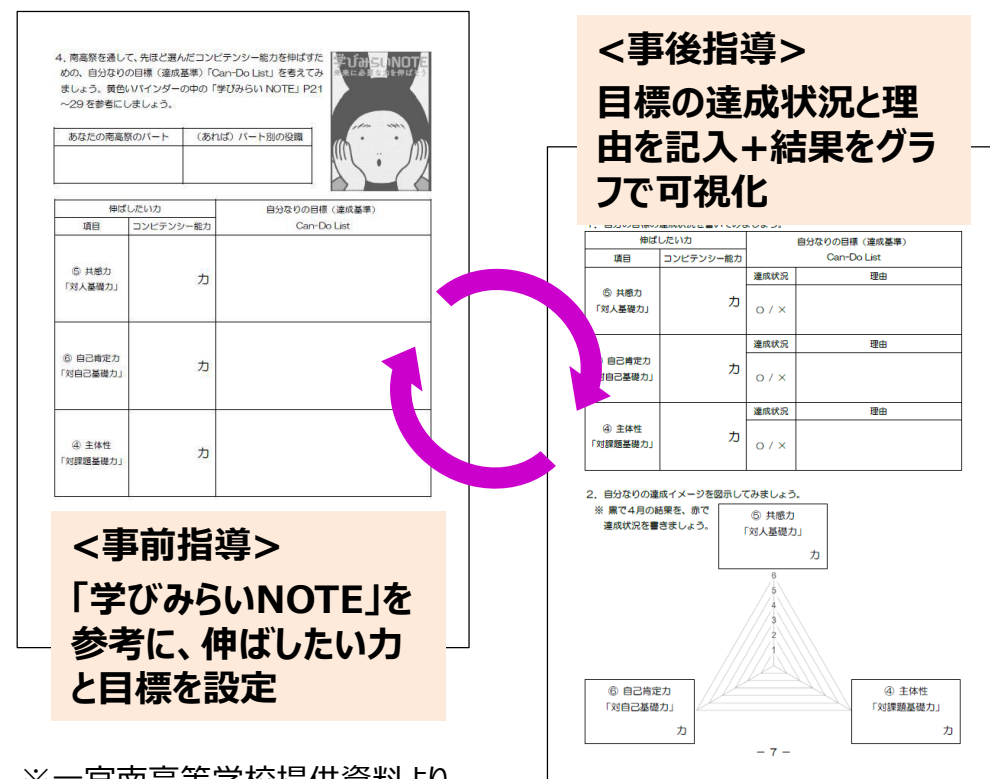
■一宮南高等学校／愛知／県立

- 結果を高1春面談で活用、学力の伸びを可視化して面談材料に。
- 学校行事に合わせ、PROG-H結果を用いて振り返り

●1学期面談での活用



●学校行事(文化祭・修学旅行)での振り返り



※一宮南高等学校提供資料より

■ 国際高等学校／奈良／県立

WWLコンソーシアム構築支援事業拠点校

- 学校が目指すべき姿を示すグランドデザインを作成し「育てたい6つの力」を定義。
- ルーブリックを活用した生徒の自己評価に加え、客観的な数値指標として学びみらいPASSを採用。
- 教育活動の中心と位置付ける『グローバル探究』の成長確認にも活用。

- 学校のルーブリックに「リテラシー・コンピテンシー」を紐づける教員研修を実施し、教員全員で多面的な評価の理解を深め、様々な学校行事の場面で指導者側の意識も高まった。

身につけたい力	グランドデザイン による解説	ルーブリック			
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
探究力	知識を活用し課題を解決する力	情報収集	原因追究 本質理解	課題発見 構想	シナリオ 構築
創造力	新たなアイデアを生み出す力	情報収集 (整理)	情報分析	課題発見 構想	検証・改善
協働力	協力・協働して互いに高め合う力	親しみやすさ	相互支援	役割理解	建設的な 話し合い
寛容さ	文化や考えの違いを大切に する力	気配り	共感	多様性の 理解	学習者視点
挑戦力	試練を克服し 前進する力	素直	主体的行動	自己効力感 楽観性	完遂
キャリアデザイン力	進路に向けて 行動を起こす 力	自己理解	情報収集	課題発見	計画立案 実践

身につけたい力	リテラシー 総合	コンピテンシー		
		対人	対自己	対課題
探究力	●			●
創造力	●			●
協働力		●		
寛容さ		●	●	
挑戦力			●	
キャリアデザイン力	●		●	●

- グローバル探究では毎回「セルフチェックシート」を使った振り返りを行い、意識付けを高め、年1回のアセスメントで成長確認を行う。

<4～5月>

学びみらいPASS受験
→解説会で自己理解と目標設定

「グローバル探究」
・持続可能な社会の担い手の育成を目指し地球規模の課題について3年間を通して探究活動を行う（週3時間）
・毎時間「セルフチェックシート」で振り返り
・年2～3回「成長チェックシート」で成長確認（自己評価）

<翌 4～5月>

学びみらいPASS受験
→成長した力とその要因を振り返る
→自己評価と照らしあわせて目標を再設定

※国際高等学校教員研修資料より一部抜粋

■ 海洋高等学校／新潟／県立

マイスター・ハイスクール事業採択校

- 地域連携をととして地域創生に挑戦、活力ある地域産業の担い手育成を目指している。
- 1年は水産科、2年からは4つのコースに分かれ、それぞれ専門的な学習を行う。
- 卒業後の進路は大学進学から就職まで様々（大学1割、専門学校3割、就職6割）。
- マイスター・ハイスクール事業評価の一つとして学びみらいPASSを採用（22年度開始予定）。

マイスター・ハイスクール（R3～R5）

新潟県立海洋高等学校マイスター・ハイスクールビジョン

- 1 普段の授業実習におけるICT活用
→効率化された業務に関する知識や技能を習得する。
- 2 企業実習・専門家派遣による6次産業化支援と地域理解
→地域資源に付加価値を付与して利益を創出するしくみ学び、郷土への愛着を育む。
- 3 道の駅「マリノ・リーム能生」内の新設直営店舗を核にしたOMO（Online Merges with Offline）の展開。
→糸魚川の魅力を発信して市内外から誘客するプロセスを通じて情報発信力・コミュニケーション力を身に付ける。

活力ある地域産業の担い手育成

カリキュラムマネジメント、地元就職者増、地元入学者増、資格取得推進

●採用決定までの流れ

- 7月：職員会議での事業概要説明の際に、事業評価として学びみらいPASSの導入を検討。
- ↓
- 10月：担当教員へ他校の活用事例を報告。
- ↓
- 12月：カリキュラムマネジメント係と具体的な活用方法について検討。
- ↓
- 1月：教員研修（全教員）。カリキュラム・マネジメントの視点で育てたい生徒像を共有。
- ↓
- 2月：育てたい資質・能力の選定。ルーブリックのたたき台を作成。
- ↓
- 4月：学びみらいPASS実施予定。

■河合塾 大学受験科（近畿地区） ※22年度からは全地区実施

- 春面談の際に説得力を持たせるツールとして活用。
- 経験の浅いチューターであってもベテランチューターと遜色ない指導を行うために、事前に面談ポイントを整理。
- 生徒の特徴を把握し、学力伸長に向けた指導を行う。 生徒の悩み・潜在的な課題をフォロー。

- 春面談では想定される生徒像をもとに、面談のポイントを整理し指導にあたる

ケース① 対課題基礎力（3つ）&行動持続力が低い

シナリオスキル	パターン	志向性タイプ
リテラシー	3	△○
コンピテンシー	3	

リテラシー	意識
情報収集力	2
情報分析力	3
課題発見力	3
構想力	2

コンピテンシー	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力
4	親和力 4 協働力 3 統率力 4 感情制御力 4	4	自信創出力 3 行動持続力 2
2			課題発見力 1 計画立案力 1 実践力 2

■想定される生徒像

やるべきことと、したいことの区別ができていない
学習計画を立てたり実行したりすることが苦手
学習習慣が確立していない
自分のやり方に自信がなく、友人のまねをする
予復習がおろそかになっている（やっていない）

■面談のポイント

昨年の敗因を自分自身で分析できているか？
基礎シリーズでの予復習はうまく回っているか？
得意科目ばかりに時間を割いていないか？
苦手科目と向き合っているか？
通学時間などコツコツ勉強する環境を整えているか？

■指導例

1週間ごとの学習計画を作成させる
まず復習中心の学習を優先させる
学習の開始時間と終了時間を守らせる
すべきことの優先順位を決めさせる

- 夏面談では夏期の過ごし方について「対課題基礎力」に焦点をあて確認とフォローを行う

河合塾 年度 大学受験科 夏期学習計画表

7月

7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土

これまでの反省と課題

無理のない学習スケジュールになっているか？
（計画立案力）

これまでの自身の課題として適切か？
（課題発見力）

各教科別の課題は？
（課題発見力）

基礎シリーズの復習、模試やOPの復習は計画通りに進められているか？
（課題発見力、計画立案力、実践力）

■加古川東高等学校／兵庫／県立

学びみらいPASSの受験結果から「注意しておきたい生徒」、「極端な結果の生徒」などをピックアップし、面談資料としてまとめる。

●注目する生徒例

・教科学力とリテラシーは高いが、コンピテンシーは低い
かつ、

→交友充実タイプ

(友人関係が良好だが、学習には本腰を入れていない)

→目標必要タイプ

(キャリア意識が低く、目標が定まっていない)

一見問題なく見えるので指導が後回しになりがちだが、
3年時に勉強を始めても志望校に届かない可能性あり

LEADS (学習生活パターン) の結果で

・「相談できる友達がいない」かつ「自尊感情が低い」

学びみらいPASSを受験した高1の7月時点で
人間関係に悩んでいる可能性あり

●タイプごとに生徒をリスト化し、面談資料として活用

冬休みの面談資料を作成

氏名	教科	リテ	コンピ	リテ総合	コンピ総合	志向性	友人関係	自尊感情	キャリア意識	興味関心
① 伸びしろいっぱい！まだまだこれから	△	△	△							
	0	0	0	3	2	単独傾向	2	1	1	3
② 部活動に命をかける！お祭り大好き	△	△	○							
	0	0	1	3	3	交友充実	3	2	1	3
	0	0	1	3	4	勤勉	1	2	1	3
	0	0	1	3	3	交友充実	3	1	2	3
	0	0	1	3	3	進学準備中	2	2	2	1
	0	0	1	1	4	勤勉	2	1	2	3
③ こだわり没頭タイプ	△	○	△							
	0	1	0	6	1	単独傾向	1	1	2	2
④ 部活動のキャプテンタイプ	△	○	○							
	0	1	1	5	3	交友充実	3	1	2	1
	0	1	1	5	3	交友充実	3	3	1	1

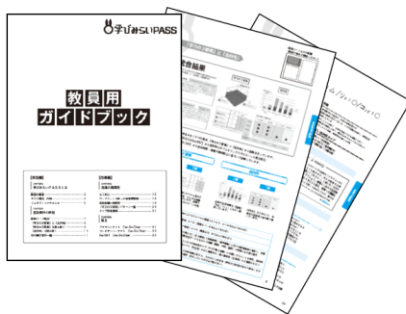
リテラシー、コンピテンシー等が
著しく高い／低い生徒をピックアップ
する資料を作成

独自の面談マニュアルを作成し、指導に活用。数値データを元にすることで
生徒指導の説得力が増し、保護者の満足度・信頼感も高まった。

※別の高校の例だが、生徒向け解説会に保護者を同席させると効果的である。

●「教員用ガイドブック」を簡略化し、学校の実態に即した 面談マニュアルを作成

冬休みの面談マニュアルを作成



教員用ガイドブックの内容を
本校用に取捨選択した面談
マニュアルを作成

河合塾作成のマニュアルはよくできているが、担任が
熟読するには分量が多い
→最低限伝えてもらいたい内容を、**本校に必要なもの
は何か？**をもとに考える必要がある

- ⑤ 学〇 リム コム 「暗記大好き・作業系タイプ」
・正解があるものは得意だが、応用や融通が利かないことも
・定期テストのための詰め込み型の勉強から、もっと視野を広げた勉強につなげられるよう助言
・生徒用資料の結果から教科学力以外の良いところを取り上げて、思い当たる場面をたずねる
- ⑥ 学〇 リム コ〇 「素直な優秀生タイプ」
・先生や保護者のアドバイスに素直に従う優秀生だが、指示待ちになりがち側面もある
・リーダーシップを高めるためにも、自分で状況判断したり考える経験を意識させたい
・周りのサポートだけでなく、探究学習などで自分で状況判断したり考える経験をしてみたいことを説明
- ⑦ 学〇 リ〇 コム 「研究・スペシャリストタイプ」
・成績も考える力もあるが、こだわりが強く一風変わった存在で、就職活動や入社してから苦労する可能性
・納得感を持たせることが重要なタイプで、生徒が納得するまでじっくり話すことが大切
・生徒会、クラス委員などを勧めて、周りに目を向け新たな発見をさせることを促す
- ⑧ 学〇 リ〇 コ〇 「夢に向かって邁進、キラキラ優秀生タイプ」
・特に手のかからない優秀な生徒のため、指導が後回しになりがち
・興味関心が固まっていることも多いが、それゆえに将来夢破れた時に適応できなくなる恐れも
・興味関心を広げるためにも、新しい体験を促し、チャレンジした結果の適度な失敗体験も大切
・来年度の課題研究を主導する姿勢をとれば、リテラシー、コンピテンシーを伸ばす新たなチャレンジになる
- ※特に本校に多い⑤～⑧タイプの生徒を後回しにせず、より高いレベルに導くことを目標とする

●面談で得られた成果

数値データを元にした指導により、説得力が増した

(例) 能力は高いがコツコツ学習できない生徒に対して

これまでは・・・

「やればもっとできるはず。頑張ろう。」

学びみらいPASSを利用した結果・・・

「リテラシー総合は5でとても高いね。でも、コンピテンシーの行動持続力が2、実践力が1と低いのもったいないよね。ここを意識すればもっと学力も伸びるはず。クラス委員に立候補するとか、新しいことにもチャレンジしてみてもどう？」

保護者の満足度、信頼感が高まった

入試改革に不安を感じる保護者に対して

生徒のリテラシーやコンピテンシーについての数値データを提示
(保護者もほぼ同意する)

⇒面談マニュアルを元に、どうすれば足りない部分を学校生活
中で伸ばせるかを説明

(例) リテラシーが低い生徒に、探究学習への取り組みを勧める

■静岡県立焼津中央高等学校／静岡／県立

- 学校の教育理念にのっとり、各学年の「探究」の目標を設定
- 総合的な探究の時間を通じた資質・能力の成長を「学びみらいPASS」を使って評価

●資質・能力の伸び方を測定

総合的な探究の時間を通じた資質・能力の成長は、生徒の自己評価や客観テストのスコアなど、さまざまな方法を組み合わせで把握

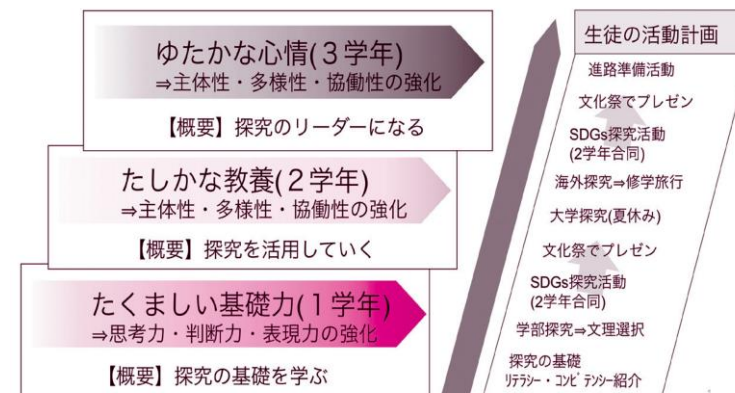
1年生4月に「学びみらいPASS」を受験し、「リテラシー」と「コンピテンシー」を状況を把握

受験後は「リテラシー」「コンピテンシー」合わせた13の力から、それぞれの生徒が伸ばしたい力を1つ選び、その力を意識しながら探究活動や学校行事などに取り組む。

2年生、3年生の6、7月にも「学びみらいPASS」を受検し、選んだ力が伸ばすことができたかを検証

評価を数値化し、自分の伸び方を客観視

●ネオ探究プロジェクト 全体イメージ



●探究活動と評価の流れ



■ 都城泉ヶ丘高等学校／宮崎／県立

- ジェネリックスキルを意識した授業改善と行事計画を通じて新入試への対応をはかる
- 授業・行事を定量的に評価するために「学びみらいPASS」を導入
- 探究活動に必要な知識と技術を「リテラシー強化書」で学ぶ「ジェネリックスキル講座」を開設

（ジェネリックスキルを意識した授業改善）学習指導案（理科）

観点別評価	A	関心・意欲・態度	電気分解について興味・関心を持ち、主体的に探究する。		
	B	思考・判断・表現	電極板の変化や量的関係について考察し、導出した考えを表現する。		
	C	技能・データ処理	実験・観察などの基本操作、表現処理する方法を身に付け、問題を解決する。		
	D	知識・理解	電気分解は、電気エネルギーで強制的に行う酸化還元反応であることを理解する。		
	リテラシー	①	情報収集力	酸化還元反応に関する幅広い視点から、電気分解における極板の変化について、電子の授受に着目した情報を的確に収集できる力。	
		②	情報分析力	各電極板における反応性を客観的に分析し、共通点や相違点を見出す力。	
		③	課題発見力	電気化学に関して、合理的・論理的に思考をめぐらせ、課題を発見する力。	
		④	構想力	電気化学に関する課題解決の実行に向けて、プロセスを計画する力。	
		⑤	表現力	各電極板における反応性に関して、電子の授受に着目したアウトプットができる力。	
		⑥	実行力	電気化学に関して、計画したプロセスに基づいて課題解決を実行する力。	
ジェネリック スキル	コンピテンシー	対人基礎力	⑦	親和力	学び合いの活動を通して、仲間と信頼性を築く力。
			⑧	協働力	学び合いの活動を通して、協力的に課題に取り組む力。
			⑨	統率力	学び合いの活動の中で、議論を建設的に進めていく力。
		対自己基礎力	⑩	感情制御力	授業内の諸活動の中で、自分の気持ちをコントロールする力。
			⑪	自信創出力	エキスパートとして、自分に自信をもち、向上しようとする力。
			⑫	行動持続力	課題解決に向けて、責任をもって最後まで粘り強く取り組む力。
		対課題基礎力	⑬	課題発見力	授業内の諸活動を通して、解決すべき課題を発見する力。
			⑭	計画立案力	授業内で発見した課題解決のために効果的な計画を立てる力。
			⑮	実践力	授業内の諸活動を通して、課題解決に向けて自ら行動する力。

※都城泉ヶ丘高校高等学校作成資料より抜粋

（ジェネリックスキルを意識した行事企画）理数科行事

ジェネリック スキル	リテラシー						コンピテンシー								
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	情報 収集 力	情報 分析 力	課題 発見 力	構想 力	表現 力	実行 力	親和 力	協働 力	統率 力	感情 制御 力	自信 創出 力	行動 持続 力	課題 発見 力	計画 立案 力	実践 力
理数科行事															
九大・東大OC	○		○				○						○	○	○
理数科生集会	○						○	○	○			○	○	○	○
学習会(春季・夏季)	○	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○
1年研究施設訪問	○	○	○	○			○	○					○		
2年課題研究	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
3年放射線セミナー	○	○	○		○	○		○				○	○		○
理数科講演会	○		○		○	○					○	○	○	○	

※都城泉ヶ丘高校高等学校作成資料より抜粋

- (ジェネリックスキル講座) 高1 : 7月～1月、全10講
- 使用教材 : 「高校生のためのリテラシー強化書」

2020年7月～1月 普通科「総合的な探究の時間」指導計画

学びみらいPASSによるリテラシーとコンピテンシーの評価・分析に基づいて、各クラスで主に担任が指導を行う。ブレインストーミング等の協調学習を通して、表現力はもとより、「情報収集力」、「情報分析力」、「課題発見力」等を培う。ここで習得した手法を1年後半からの探究活動につなげる。

7月2日	ジェネリックスキル講座1
7月16日	ジェネリックスキル講座2
9月10日	ジェネリックスキル講座3
9月17日	ジェネリックスキル講座4
9月24日	ジェネリックスキル講座5
10月1日	文理研究①
10月15日	教育課程説明会
10月29日	文理研究②
11月5日	ジェネリックスキル講座6
11月12日	ジェネリックスキル講座7
11月19日	ジェネリックスキル講座8
12月3日	ジェネリックスキル講座9
12月10日	郷土探Q1「郷土を知る」講演会
1月14日	ジェネリックスキル講座10「調査・統計」

7月16日(火) 7限目 総合的な探究の時間

今回は、ジェネリックスキルの中のリテラシー「情報分析力」について簡単な演習を行いながら、情報収集力とは何か、どういうことを意識すべきかなどについて気づいてもらうことがねらいです。

情報分析力とは… 集めたさまざまな情報を、客観的かつ多面的に整理したり分析して、現状を生活に把握する力のこと。思い込みや憶測ではなく、客観的に情報を分析し、そこに隠れた構造を正確にとらえて、本質を見極める力のことをいう。

情報分析の3つのステップ

ステップ1・・・文章・資料を読む

文章の構造を理解し、そこに書かれた事実や意見、主張を正しく読み取る。

ステップ2・・・表やグラフを読み取る

表やグラフに書かれた数字を読み取り、それが示す事実を正しく読み取る。

ステップ3・・・情報を批判的、多角的に分析する

文章やグラフの情報に疑問を持ち、批判的、多角的な視点で文献・資料を見直す。

※今回の授業では、ステップ2「表やグラフを読み取る」からステップ3「情報を批判的、多角的に分析する」まで行うことをテーマにしていきます。

■ 専修大学松戸高等学校／千葉／私立

主な活用場面				
①面談	②キャリア・進路	③効果検証	④新しい学力	⑤ポートフォリオ

- 学びみらいPASSの測定項目も参考にしながら、学校で育成したい資質・能力を具体化
- それぞれの資質・能力を年間行事と結び付け、どこで育成していくかを整理
- 整理した一覧を生徒とも共有し、「目的意識を持った取り組み」と「振り返り」を促す

①「建学の精神」から、生徒に身につけさせたい
資質・能力を具体化

②学校の取り組み・行事と①を結びつけて整理

報恩奉仕
育てられ、成長したことへの恩に
報いる心を忘れず奉仕すること

[建学の精神]
人間力の育成
国際性の養成

質実剛健

皮相を飾ることに拘われず本質
を大切に、心身共にたくまし
く健やかであること

誠実力行

真心を持って力の限り目標に
向かって努力すること

報恩奉仕

質実剛健

誠実力行

観察力

自己管理能力

判断力

主体的行動力

行動持続力

自主的行動力

協働力

統率力

説得力

各行事・活動で成長が期待できる力の目安

	観察力	主体的 行動力	協働力	自己 管理能力	行動 持続力	統率力	判断力	自主的 行動力	説得力
H. R.	◎								
授業	◎	△	△	△	△		△	○	△
部活動	◎	○	◎	◎	◎	△	○	○	△
委員会・生徒会	◎	◎	◎	○	○	△	◎	◎	△
リーダー研修	◎	△	◎	◎	△	◎	◎	○	◎
球技大会		△	◎	○		△	△	○	
語学研修	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
学習合宿		◎	○	◎	◎		△	◎	
文化祭	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
体育大会		○	◎	○		△		○	
∫									

◎：参加者全員に成長が期待できる ○：それなりに意識をしたものに成長が期待できる

△：特に意識をした者に成長が期待できる

※専修大学松戸高等学校作成資料より一部抜粋

各行事や年度末の振り返りを行い、自身の具体的な行動や成長感をシートに記入。
今後、大学入試においては活動履歴（ポートフォリオ）としての活用も予定。

●各学期最低でも1つ、年間で3つの活動記録を残す

●年度末には1年間の振り返りも実施

Step 3 ポートフォリオシートに必要事項を記入し、自己評価を行う。

記入例

今回の活動： 定期考査

今回行動記録する活動を一つ選び記入

1. 今回の活動を通して意識した力

観察力	自己管理力	判断力
主体的行動力	行動持続力	自主的行動力
協働力	統率力	説得力

今回意識する力を選んで○をつける。
(いくつでもOK)

2. 意識した力を高めるために取り組んだ具体的な行動

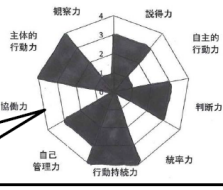
主体的行動力	数学でのテスト100点満点を目標に授業や宿題だけでなく自分で選んだ問題集にも取り組んだ。
行動持続力	前回の中間考査での反省を元に、期末考査まで毎日1時間数学の勉強をした。
説得力	テストで出された証明問題を授業で習った解法ではなく、問題集で覚えた別の解法で解いて先生に驚かされた。

今回取り組んだ具体的な行動をできるだけ詳しく書く

3. 今回の活動を通して「9つの力」の自己評価をしよう！

評価の基準
1：全く成長しなかった 2：あまり成長しなかった
3：やや成長した 4：期待通り成長した

自己評価できる項目をすべて塗りつぶす。その際、2で選ばなかった力は評価できる範囲です。(評価できない項目はそのままでよい)



4. 今回の活動を通して2.で選ばなかった力の評価の根拠を記入しよう。

観察力	今回授業で習った解法ではない方法で解いて先生からは褒められたが、実は授業でやった解法が思い浮かばなかったというか、覚えていなかった。今思えば自分で選んだ問題集を中心に勉強したため、授業と家庭学習が少しおろそかになったかもしれない。
自主的行動力	今回取り組んだ問題集は友人に進められたものだった。おかげで先生にも褒められたし、目標の満点は取れなかったけれど93点だったので自分ながらナイス判断だった。
判断力	

5. 1.～4.の内容をふまえて今回の活動を総括しよう！(必ず肯定的な言葉で終わらせること)

今回は期末考査の数学で満点を目指し、中間考査から毎日1時間数学の勉強をした。宿題だけでなく友人に紹介してもらった問題集を中心に学習を進めたおかげで、テスト本番では勉強の成果を発揮し先生を驚かせることができた。目標の満点には残念ながら届かなかったが、今回は自分で考えて取り組んだこと自身を持つことができたので、今度の定期考査では満点を絶対取れるように引き続き勉強していきたい。

総括は自己推薦書や他人に読んで評価されることを意識して記入しよう！

ジェネリックスキル振り返りシート

第1学年 組 番 氏名
第2学年 組 番 氏名

★各項目上段には年度当初実施した学びみらいPASSでの評価が記載されています
★各項目下段には、Can-Do List を参照し、今年1年を振り返っての自己評価(1～5)と理由(評価によって記載する内容は変わります。詳細は以下の記入例参照)を記入すること
●年度当初の評価と同じ、または低い自己評価をした場合：高2になってから「①どのような活動を通して」「②どんなことを意識して高めていきたい」かを記入すること
●年度当初の評価よりも高い自己評価をした場合、「①どのような活動を通して②どのような工夫をしたことによって高まった」かを記入すること

リテラシー	情報収集力	
	情報分析力	
	課題発見力	
	構想力	

★リテラシー・コンピテンシーをリーダーチャートで確認★

4月当初の評価を青線でつなげ、1年間の振り返りの自己評価を赤線でつなげて成長の度合いを可視化しよう！



コミュニケーション	対人	観察力	
		協働力	
		統率力	
	対自己	感情制御力	
		自信創出力	
		行動持続力	
	対課題	課題発見力	
		計画立案力	
		実践力	

★このワークシートは新年度当初のH.R.にて新任の先生に提出してください。